

I. この1年の歩み全体概要

1. 電話相談事業

13名の28期生が新たに認定されたが、現有の相談員に辞任者や休務者があり、相談員が微減する中(平均実働相談員数で3名減)2014年においても、24時間受信体制を維持し、実相談数13,686件、うち自殺志向のもの1,580件(11.5%)の電話相談を受けた。その中で14年目になる毎月10日に実施している「フリーダイヤル自殺予防いのちの電話」の実相談数は、598件、うち自殺志向は145件(24.2%)であった。

2. 相談員の養成研修・継続研修

相談員増員のための募集活動を、行政を通じての広報やポスターの作成、ホームページによる呼び掛け募集説明会など積極的に実施した。

電話相談員の養成研修は、28期生、29期生、30期生に対して実施した。28期の相談員として13名が認定され、9月に認定式及び歓迎会を行った。

現任相談員に対する継続研修(対象者17グループ、9月から18グループ、年12回)については予定通り実施し、各人年1回の義務スーパービジョンも行った。また、組織内でスーパーバイザーを育成・確保するため、第6期特別研修生(研修生6名)の研修を引き続き実施した。その他、現任相談員対象に12月に1泊リフレッシュ研修を実施した。6つの近隣センターからも参加があり交流ができた。

3. 財務

賛助会員者数 個人 122件、法人 30件 合計 152件(前年度 144件)

寄付協力者数 個人 98件、法人 9件 合計 107件(前年度 139件)

事業推進委員会の企画部及び製作部の活動による益金を法人の運営資金に繰り入れた。

4. 広報・社会教育活動

広報誌「川崎いのちの電話」(81号、82号、83号)を発行した(延べ15,000部配布)。

事業案内(2014年度事業計画と2013年度事業報告)を発行した(2,300部配布)。

公開講座として、川崎市と共催「こころの健康セミナー」講師：平野啓一郎(作家)・長谷川俊雄(白梅学園大学教授)(10月11日)、日本いのちの電話連盟と共催「FD自殺予防いのちの電話」張賢徳(帝京大学附属溝口病院教授)(9月19日)、30期相談員養成研修の基礎講座全6回(2月、3月)を実施した。ダ・カーポコンサート(7月5日)、柳家喬太郎チャリティー寄席(3月)も実施した。

5. 各種会議・委員会活動

理事会3回（5月,1月,3月）、評議員会3回（5月,1月,3月）それぞれ開催。運営会議、相談員委員会、研修担当者会、事業推進委員会（企画部、製作部、広報部）の各会議も実施した。

6. 対外活動

- ・日本いのちの電話連盟：総会、事務局長会議、補助事業推進委員会等に出席した。
- ・いのちの電話相談員全国研修会ぐんま大会（11月）に参加した。
- ・川崎市委託事業「自死遺族ほっとライン」に協力した。
- ・市内外の中学校、子育て支援等に講師派遣。
- ・各種の外部研修などに参加した。
- ・各ライオンズクラブ、ロータリークラブの周年行事・例会等に参加した。
- ・町田市社会福祉協議会が行っている「ここなび」の相談員と意見交換した（10月）。
「ここなび」はホームページで小学生から高校生の悩み相談をおこなっている。

7. その他推進事項

- ・インターネット相談について要員の養成を実施し、今年の6月から試行運用を開始できるまでの準備ができた。
- ・電話相談の危機管理対策については年間を通じて組織の中でいろいろ議論ができた。具体的な施策を次年度計画の中で実現していく。
- ・相模原にサテライトセンターを作る計画については横浜センターと一緒に相模原市に協力依頼をし、設置できる場所を探していただいている。

II. 電話相談活動

A. 電話相談の状況

1. 相談電話件数

2014年実相談数は、13,686件（1日平均37.5件）で昨年より319件減少した。男性（6,228件）、女性（7,458件）と、それぞれ220件増加、539件の減少となった。

年代別に見るとここ10年で、10代は半減、20代・30代も減少、他方40代以上は増加中で60代は3倍増。人口構成の変化もあるがそれ以上に若い世代の電話離れが見られる。今年から若者世代に合わせインターネット相談の試行を開始する。

全体の実相談件数は減少した。新しい相談員が13名誕生したが、辞任者や休務者があり、平均実相談員数は昨年より3名程度少ない170名であった。相談員の増員は最大の課題である。

件数的には微減ながら自殺傾向を示す相談件数は増加を続けており、全国の自殺者件数が減少する中で、いのちの電話の重要性は高まっているといえる。

2. 男女別・年代別相談状況

最近10年の相談状況を数表で示し、特徴を解説文に代えてグラフとした（表1～2、図1）。

表1 男女別実相談数（2003～2014年）

（単位：件）

区分	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
男性	6,583	6,947	6,439	6,571	6,866	6,299	6,142	6,036	6,008	6,228
女性	7,831	7,952	7,892	8,190	8,194	8,162	8,144	7,993	7,997	7,458
計	14,414	14,899	14,331	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,005	13,686

表2 年代別実相談数（2003～2014年）

（単位：件）

区分	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
10代	980	976	931	929	651	649	643	757	732	583
20代	1,964	1,870	1,974	1,890	1,703	1,586	1,525	1,434	1,438	1,307
30代	2,978	3,035	3,199	3,241	3,261	3,200	2,771	2,615	2,538	2,413
40代	2,495	3,207	3,258	3,227	3,523	3,335	3,260	3,290	3,321	3,365
50代	2,183	2,214	2,344	2,580	2,683	2,643	2,735	2,666	2,678	2,453
60代	504	653	694	865	963	1,068	1,216	1,305	1,344	1,468
70代以上	175	224	244	272	274	232	256	243	279	343
不明	3,135	2,720	1,687	1,757	2,002	1,748	1,880	1,719	1,675	1,754
計	14,414	14,899	14,331	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,005	13,686

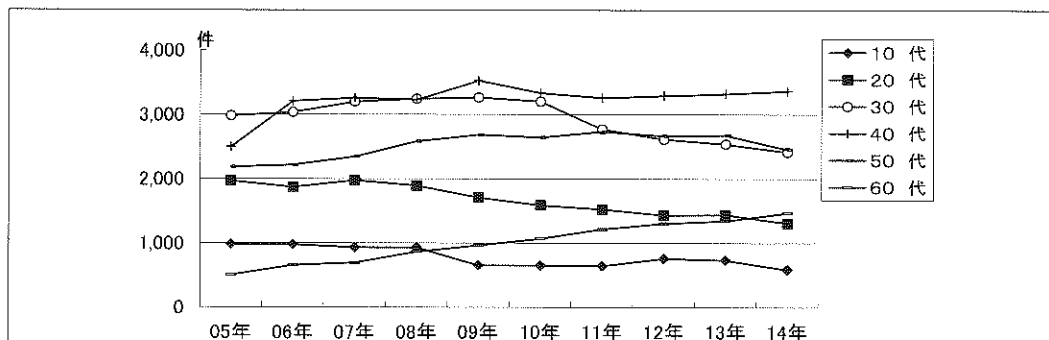


図1 実相談数10～60歳代の推移

3. 内容別相談状況

最近10年の内容別相談状況を表及びグラフで示した(表3, 図2～3)。

表3 内容別実相談数(2005～2014年)

区分	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	計	割合(%)
人生	4,703	4,926	4,907	4,910	5,210	5,085	5,075	4,659	4,446	4,393	48,314	33.6
家族	1,941	2,154	1,948	1,852	1,691	1,808	1,817	2,018	2,070	2,039	19,338	13.4
夫婦	1,128	1,213	996	926	1,026	910	925	786	863	711	9,484	6.6
男女	773	826	699	735	808	772	738	1,025	1,087	1,006	8,469	5.9
対人	1,554	1,597	1,705	1,947	1,849	1,763	1,482	1,555	1,577	1,596	16,625	11.6
保健医療	2,246	2,231	2,304	2,456	2,787	2,473	2,502	2,591	3,084	3,230	25,904	18.0
性	1,543	1,442	1,322	1,425	1,248	1,210	1,218	905	404	360	11,077	7.7
他3項目	526	510	450	510	441	440	529	490	478	351	4,725	3.3
計	14,414	14,899	14,331	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	143,936	100.0

(注)「他3項目」は、①教育、②法律・経済・社会・環境、③情報の3項目をまとめた相談数。

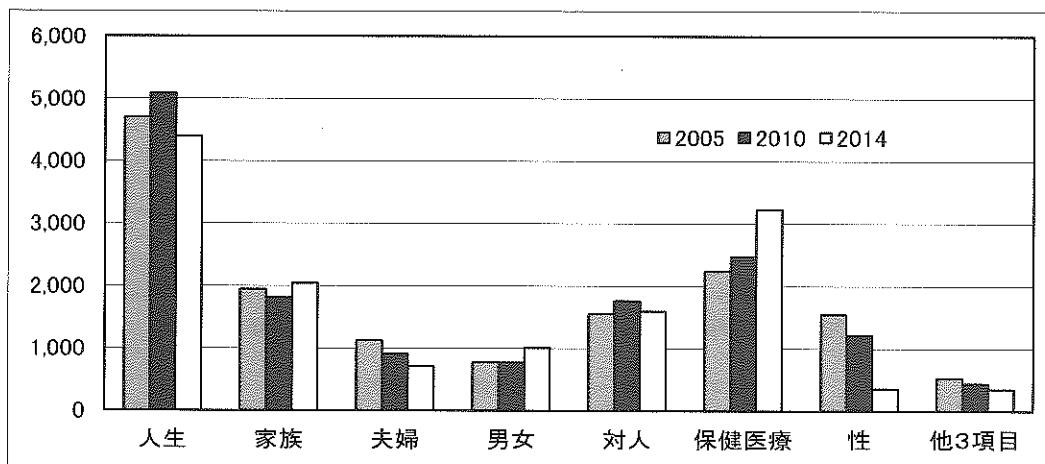


図2 内容別実相談の年別対比

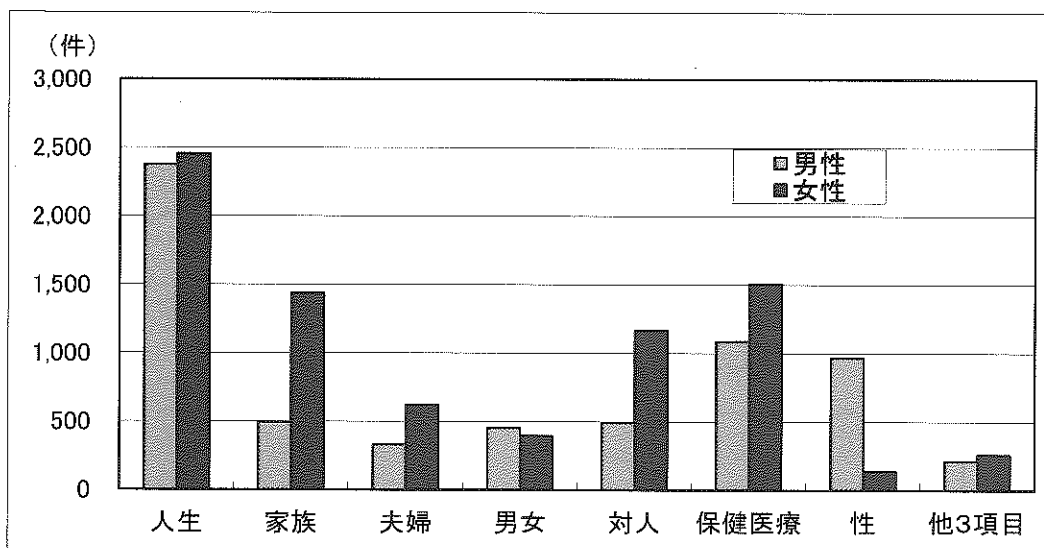


図3 男女・内容別実相談数(2005～2014年平均)

4. 自殺志向相談状況

最近10年の自殺志向相談の状況を表及びグラフで示した(表4, 図4~5)。

表4 男女別自殺志向相談割合の推移(対実相談数%)

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
男性	6.2	6.2	8.5	9.1	9.0	9.6	8.7	10.2	12.2	9.3
女性	8.5	8.6	9.2	10.8	11.0	10.1	10.8	12.2	8.2	13.4
男女計	7.5	7.5	8.9	10.1	10.1	9.9	9.9	11.3	10.9	10.9

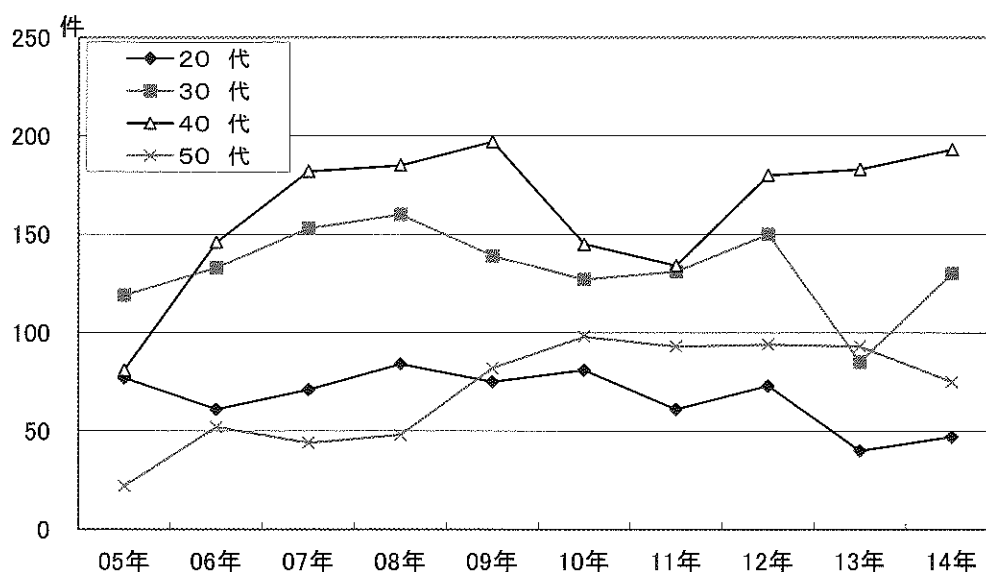


図4 男性20~50歳代自殺志向相談の推移

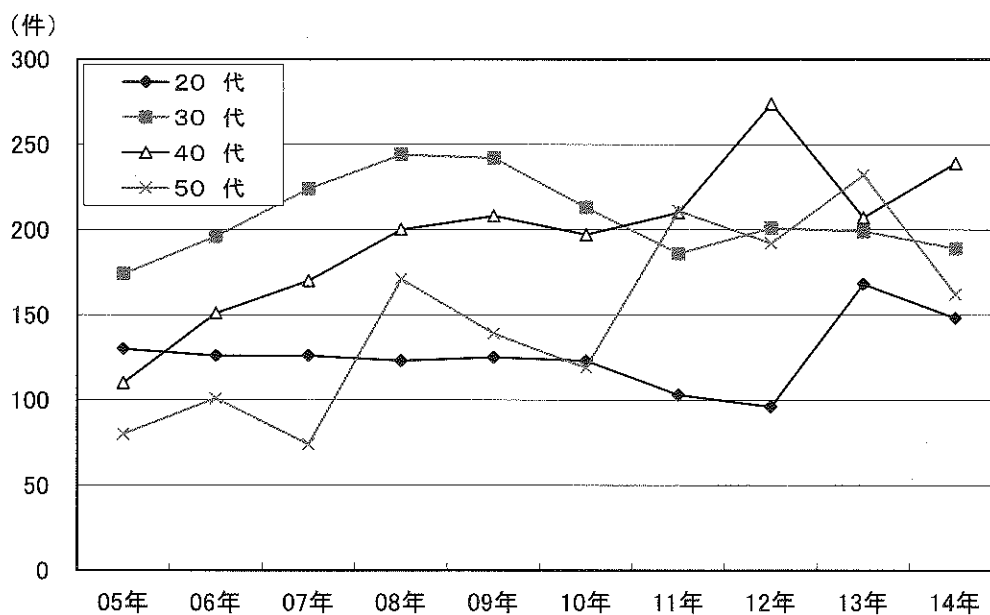


図5 女性20~50歳代自殺志向相談の推移

B. 相談員・研修担当者の養成と研修

1. 相談員養成研修

電話をかけてくる人を選ぶことなく、訴えを傾聴しながら、あたたかい関係を作っていく能力が、相談員には求められる。養成研修では、基礎講義・レポート・面接・性格テストで適性を考査の後、まず自己理解と他者理解を深めるためのグループによる体験学習を行う。次段階では、座学の講義を経て、実地に電話を取りながらスーパービジョンを受ける。その後、半年のインターン期間で、相談員としての役割と日常生活との両立を図っていく。

前年度においても、各段階の審査をパスした研修生は、相談員に必要な力を養うための自己課題を明確にしなが、また研修生相互の関係を深めながら、意欲的に研修に取り組むことができた。

近年、養成研修応募者数は減少傾向にあるため、より受講しやすい研修体制の構築に継続的に取り組みながら、研修受講希望者の尊い意志に応えていきたい。

(1) 28期生研修

インターン研修 2014年4月～8月

インターン生として、相談員と同様に月2回電話相談を担当し、7月～8月は深夜帯を体験した。期間中1～2回のスーパービジョンを受け、研修と精神的支えのために月1回のグループ研修を行った。また6月に、基礎講義（2時間）を受講した。

・「いのちの電話相談の基礎理論」…… 講師：川崎いのちの電話 田中 幸治

認定証授与式（2014年9月）13名が電話相談員として認定され、認定証が授与された。

その後、相談員委員会主催の歓迎会が開かれた。

(2) 29期生研修

公開講座（基礎講義A） 2014年2月～3月、全6回（申込38名、修了36名）

電話相談員養成研修

公開講座を修了した23歳から65歳までの応募者の中から、自己形成史レポート（原稿用紙10枚）、面接、性格テスト（TPI）などを参考にして、29期相談員養成研修受講生を決定した（応募者20名、研修受講生19名）。

人間関係基礎訓練 [30時間] 2014年5月～7月（2グループ15名受講修了）

15セッションのグループ体験学習（宿泊研修の4セッションを含む）及び講義を実施。

電話モデル学習 [24時間] 2014年9月～11月（2グループ10名受講修了）

体験学習を12セッション（3人1組の傾聴訓練、危機介入などの応答訓練）を実施。

基礎講義 B [12時間] 2014年12月～2015年1月

- | | | |
|---------------------------------|----------|-------|
| ① 「いのちの電話の基本と実際」…………… | 川崎いのちの電話 | 田中 幸治 |
| ② 「いのちの電話相談の現状と対応」…………… | 川崎いのちの電話 | 高木 圭 |
| ③ 「いのちの電話相談における性」…………… | 川崎いのちの電話 | 山田美和子 |
| ④ 「精神医学の基礎」～精神疾患とパーソナリティー障害～ …… | 目 白 大 学 | 渡邊 勉 |
| ⑤ 「いのちの電話相談員としての成長」…………… | 川崎いのちの電話 | 鈴木 清 |
| ⑥ 「研修に思うこと」～受講生との話し合い～ …………… | 川崎いのちの電話 | 研修担当者 |

電話実習研修 2015年1月～3月（9名受講修了）

オリエンテーション（11月）で実際に電話相談に出るための心構えを確認し、また実務研修やセンターの見学を行った。その後、月2回実際に電話を取り、相談活動に参加した。この間、1人4～5回のスーパービジョンを受けた。この後2015年4月から8月までをインターン研修期間とし、相談員としての認定は、2015年9月となる。

（3）30期生研修

公開講座（基礎講義A） 2015年2月～3月（申込42名、修了36名）

- | | | |
|---|-------------------|-------|
| ① 「川崎いのちの電話について」 …………… | 川崎いのちの電話理事長 | 金子 圭賢 |
| 「いのちの電話とボランティアについて」 …………… | NPO法人CESC | 末松 涉 |
| ② 「よりよい対人コミュニケーションをめざして～カウンセリングの観点から～」
…………… | 立 教 大 学 | 逸見 敏郎 |
| ③ 「発達障害の理解とその支援」…………… | 川崎西部地域療育センター | 中山 修 |
| ④ 「大切な人を自殺から守るために」…………… | NPO法人メンタルレスキュー協会 | 小野田奈美 |
| ⑤ 「若者の悩みと支援について」…………… | 新横浜こころのホスピタル | 土志田 務 |
| ⑥ 「ドメスティックバイオレンスについて考える」…………… | NPO法人ウイメンズハウス花みずき | 大塚加代子 |

2. 継続研修

電話相談活動をより深めるため、相談員はたゆまぬ研修により資質の向上を図っている。毎月1回2時間のグループ研修と年1回スーパービジョンを受けることを義務としているほか、全体研修を毎年企画実施している。また一定期間活動を休んでいた相談員の復務に際して、スーパービジョン（4回）及びロールプレイ研修（1回）を実施した。

（1）継続グループ研修

1グループ8名から12名で構成し、17グループで月1回の研修を持った。各自が問題意識を持って集まり、話し合い中心の研修を行った。

（2）義務スーパービジョン

26年度は、より確実かつ効率的に義務スーパービジョンを実施することを目的に、年度当初、全相談員に7月～12月の期間内でスーパービジョン枠を割りあてる方式を試行した。概ね所期

の目的を達成することができた。

(3) 相談員リフレッシュ宿泊研修

「聴くこと・分かることを心と身体で実感する」をテーマに、外部講師による新鮮な研修手法を体験し、今後の相談に活かすこと及び宿泊を通して相談員同士の交流を促し、相互の成長を図ることを目的に、認定後の全相談員及び近隣センターの相談員にも呼びかけ、一泊のリフレッシュ研修を実施した。

日時：12月13日（土）～14日（日） 会場：逗子佐島マリーナ

分科会内容：①プレイバックシアター（講師：白坂和美）

②フォーカシング（講師：堀尾直美）

③MLTコミュニケーショントレーニング（講師：中村千賀子）

参加者：44名（群馬8名、埼玉3名、静岡3名、横浜2名、千葉2名、茨城1名、川崎25名）

3. 研修担当者研修

継続研修グループを担う研修担当者の資質向上を図るため、及び情報交換を通して相談員の研修に関わる諸課題に対処するため、以下の事業を実施した。

(1) 研修会の実施及び外部研修会への参加

9月：「研修担当者相互の情報共有」を目的とした懇談会の実施。

9月：危機介入の外部研修会に、有志が参加。

(2) 研修テキストの作成

危機介入の外部研修会への参加を期に、今後相談員の内部研修に活用できるよう、電話相談による危機介入のための研修テキスト原案を作成した。

4. 特別研修

特別研修は、経験を積んだ相談員の中から研修担当者を養成することを目的に、1989年度から実施している。このことにより、電話相談の専門性を重視した研修体制が確保されている。2014年度は、第6期特別研修の3年目として以下の研修を行い、年度末には3年間の研修成果を評価し、4名の特別研修生をニューリーダーとして認定した。

① 29期相談員養成研修の人間関係基礎訓練のファシリテーター及び世話係、電話モデル学習のリーダー及び世話係、電話実習研修のスーパーバイザーの体験研修

② 8月「ファシリテータートレーニング」2泊夏合宿研修（横浜・千葉・山梨センターと共催）
外部研修講師：濱本孝子（HIL研究会）、平塚園枝、福田哲（群馬センター）

③ 11月 講義「社会福祉と精神保健」講師：鈴木剛（川崎市精神保健福祉センター）

3月 講義「危機理論と危機介入」（全2回）講師：張賢徳（精神科医）

④ 2月一泊春合宿研修

「3年間の特別研修期間を終えるにあたって」「ニューリーダーにむけての自覚と抱負」を

テーマに、特別研修生の自主企画による研修を行った。

5. 川崎市こころの健康セミナー

公開講座 10月11日 テーマ「生き辛さの処方箋～『分人』という発想～」

講師：平野 啓一郎（作家）、参加者 266名

6. その他の研修

11月13日～15日 いのちの電話相談員全国研修会ぐんま大会 9名参加

その他、各種の外部研修、公的機関研修に参加し、資質の向上に努めた。

7. 研修体制

- (1) 研修担当者会：研修担当者全員（18名）で構成されている。全体会を2回（10月、3月）開催し、研修各部の報告、今後の研修体制等について討議・決定した。
- (2) 研修担当者部長会：3つの研修部（初期、継続、研修担当者）の各部長及び特別研修委員会の委員長と役員4名で構成、各部から検討事項を持ち寄り話し合いを行った。
- (3) 研修担当者役員会：代表1名、副代表3名で構成、対外的な問題を含めて話し合いの場を持った。また、研修全般及び相談活動の質の向上に関わる諸課題への対処を目的に、役員会の元にワーキンググループを置き、今後の関連諸活動に携わる予定である。

8. 講師派遣

6月5日	秦野市立南中学校福祉講演会	1名派遣
9月26日	相模原市ゲートキーパー養成研修会	2名派遣
9月30日	中原区こんには赤ちゃん訪問員研修会	1名派遣

C. 電話相談員

1. 相談員の構成 2015年3月31日現在

◇認定者数（1～28期）	703名（男91名、女612名）
◇在籍数	194名（男27名、女173名）
◇実働者数	163名（男25名、女138名）

2. 相談員委員会

相談員委員会は各継続グループより選出された代表から構成され、毎月第一木曜日に開催している。2014年度は、11月を休会とし、1月は6日火曜日に開催した。

相談員委員会は200人近い相談員の意見集約の場であり、ひとりひとりの意見を反映する場でもあるという事を執行部は常に意識し、相談員委員会の前に執行部会を開催し、相談員委員

会に臨んでいる。

相談員委員会の会議の目的としては、相談員の電話による相談活動が円滑に行えるよう、問題の協議を行い、議事録を作成することによって全ての相談員に伝達し、調整するものであり、さらに、委員間の親睦を目指すものとしている。

2014年度は、川崎いのちの電話の会員として直面した課題を1年かけ議論した。そして今後の電話相談のあり方についても長期にわたり質疑が繰り返され議論している。

その他 *緊急伝達的手段として電子メールを利用した。

* 相談員委員会は、事務局、事業推進委員会からの連絡、報告等にも活用されている。

2014年9月7日相談員委員会は、新相談員28期生の認定式、歓迎会を実施。2014年後半の相談員委員会からは新相談員の28期生を迎え、18のグループとなった。

実働相談員の確保、空きコマへの対応は反復される課題であり、相談員委員会に於いて協議しきれなかったところが反省点である。

この1年、ほとんど欠席者がなく議事を進められたことに敬意を表したい。

Ⅲ. 事業推進委員会

A. 企画部

[2014年度実施事業報告]

川崎中原ロータリークラブ卓話	2014.4.17	精養軒
ダ・カーポ チャリティーコンサート	2014.7.5	エポックなかはら
新春チャリティー寄席「もうすぐ春だよ 喬太郎」	2015.3.1	エポックなかはら

[2015年度実施事業計画]

第9回ゆうから歌謡演舞大祭	2015.5.23	横浜ラポール
フォレスタ チャリティーコンサート	2015.11.21	エポックなかはら
新春チャリティー寄席「もうすぐ春だよ 喬太郎」	2016.4.23	エポックなかはら

上記のコンサート・落語会等のイベントは、広く市民の皆様に「電話相談活動」を理解頂く為の活動の一つとして実施している。

また、開催による収益金は、電話相談事業を支援する為の資金援助活動として有効に活用している。

各イベントのチケット販売は、関係の皆様のご協力やチケット委託業者等により実施。まだ十分ではないが多くの皆様の参加を頂き盛會に催されてきた。今後も、イベントを支援する固定の支援者の拡大に努めていく。

さらには各種団体に出向き、スピーチ等により川崎いのちの電話への支援要請や普及に努めている。

B. 広報部

2014年度は広報誌を3回定期発行した。各号の特集は次のとおり。

・81号 2014年3月発行 「若者の自殺はなぜ増え続けるのかー“就活自殺”の背景を探る」というテーマで、NPO法人・ライフリンク代表の清水康之さんにインタビューした。また、自殺の社会的要因や自殺防止策の効果を、データを使って検証した本「自殺のない社会へ」を紹介。

・82号 2014年7月発行 和歌山県立医科大学保険看護学部講師の岡檀さんに「自殺予防に5つの要素ー徳島県海部町」と題して話を聞いた。合わせて2人の広報部員が海部町を訪ねて現地ルポした。

・83号 2015年3月発行 「365日門戸を開いてーあなたのお話 お聴きしますー」というテーマで、曹洞宗正山寺住職の前田宥全さんにインタビューした。悩みを抱える人の話を聴いたり、手紙で悩みを受け付け、返事をしている。

(83号から印刷会社を新たに東京都目黒区の三協印刷に変更した。これまでの印刷会社より距離的に近くなり、連絡がうまくいくことになると期待している。同時に、表紙のレイアウトを変更した。1号あたりの費用も大幅に削減できた。)

2015年度も3回の定期発行を計画している。

C. センター製作部

センター製作部では、毎月第一、第三金曜日に集まり、バザー等で販売する手作り製作を行なっています。主な作品はオリジナルエプロン、シェフエプロン、縫いぐるみ、人形、手さげ、バック、ポーチ、クリスマス関係グッズ、その他アイデア作品もいろいろ。

メンバーはただ今約20人位でお弁当持ちでおしゃべりをしながら製作に励んでいます。

販売は教会のバザーやいのちの電話企画部主催のコンサートや地域の行事、市民プラザやスクラム21にも出店し、新しい販路も開拓し、一層の充実した会にしたいと頑張っています。

D. 新ゆり製作部

新ゆり製作部は新百合ヶ丘近くに住んでいる手作りが好きな人たちが集まって、月2回第3金曜日と第4金曜日に新百合ヶ丘21ビル福祉パルで活動しています。

製作しているものはエプロン、ポーチ、袋物、ぬいぐるみ等で年2回のチャリティーバザー、麻生福祉祭りバザーで販売をして売り上げを「いのちの電話」に寄付しています。